

めざせ！研究もできる実践者！

ソーシャルワーカー向け

現象学的研究 ワークショップ

実践をふり返り、生の意味から考える！

こんなお悩みにアプローチ！

研究モニターの
募集です
(先着30名)



今でもモヤモヤが残るあのケース…

他職種に支援の根拠をどう説明したら？

相手の世界観を深く理解したい！

2024年

参加無料

11月9日(土)

14:00 - 17:00

川崎医療福祉大学 5101教室

講師

植田 嘉好子

川崎医療福祉大学 准教授



現象学って聞きなれないかもしれませんが、実は私たちが普段使っているものとや人の理解の方法なんです！自分の実践をふり返り、新たな視点で捉え直してみませんか？

お問い合わせ

川崎医療福祉大学

ADDRESS 岡山県倉敷市松島288
TEL 086-462-1111 (内線54047)
MAIL k_ueda@mw.kawasaki-m.ac.jp

申込みは10月末まで

このワークショップはJSPS 科研費
21K01989の助成で実施します



ソーシャルワーカー向け 現象学的研究ワークショップの内容

本ワークショップは、全3回で行われます。

1回目に参加した後、2回目以降に参加するかどうかを決めることができます。

なお、2回目のみや3回目みの参加はできません。

連続した内容になりますので、2回目と3回目の参加はセットになります。

※表面の二次元コードから、本研究の詳しい「説明書」を読むことができます。

2回目・3回目の
参加者には研究モニター
として謝礼進呈

第1回

2024年11月9日

- ◆現象学ってなんだろう
- ◆現象学的研究とは？
- ◆ソーシャルワーカーが現象学的研究をする意義
- ◆現象学的研究の例
- ◆「実存」「言葉」とは
- ◆アンケート記入

第2回

2024年12月7日

- ◆自分の経験をふり返る
- ◆現象学的に分析したい事例や場面
- ◆グループで現象学的分析
- ◆各グループより発表！
- ◆講師のコメントと解説
- ◆アンケート記入

第3回

2025年1月25日

- ◆自分の事例で現象学的研究にトライ！
- ◆自分の価値観や見方を言語化してみよう
- ◆どこが難しかった？研究のプロセス・到達点を振り返る
- ◆アンケート記入

本研究は、ソーシャルワーカーが現象学的研究を実践するための
研修モデルの構築を目的としています。

現象学は認識の哲学原理で、
クライアントにとって疾病や障害、生活のしづらさ等が
どのように経験されているのかといった、
人々の生きる上での意味を深く理解するための方法論です。

看護や心理、教育等の分野では、現象学が実践研究の方法として
用いられていますが、ソーシャルワークではほとんど知られていません。

現場の方にも使いやすい現象学の研究方法を考案し、
日々の実践を言語化して、ソーシャルワークの専門性や成果を
明らかにできる機会を増やしたいと考えます。

このような研究目的にご賛同いただける方は、ぜひご参加ください。